

名古屋外国語大学海外派遣プログラム成果報告書

2026 年 3 月 31 日

学部・学科名 世界教養学部・国際日本学科

担当教員氏名 近藤 行人

1. 区分	中期留学 ・ 語学研修 ・ 海外実習
2. プログラム名称	ハノイ国家大学外国語大学日本語教育実習
3. 渡航先国名	ベトナム
4. 派遣期間	2026 年 3 月 8 日（日）～ 2026 年 3 月 21 日（土） 14 日間
5. 派遣先教育機関名	ハノイ国家大学外国語大学
6. 参加学生数	3 名
7. 派遣目的	ハノイ国家大学外国語大学（以下、ULIS）学生を対象として、日本語授業の見学、現地での教壇実習を実施し、あわせて、異文化体験や ULIS 学生との交流の機会をもつ。
8. 派遣内容	① 事前指導 : 教壇実習で担当する予定の教授内容につき、授業計画立案、教案作成等を行い、指導を受ける。 ② 授業見学 : ULIS における日本語授業 ③ 教案指導 : ULIS 教員による教案指導を受ける ④ 教壇実習実習 : ULIS 日本語学科の授業において、各実習生あたり 4 コマ分の教壇実習を行う。実習に先立って ULIS 教員による教案指導を受け、実習後に批評・助言を受ける。 ⑤ 異文化体験 : ULIS 学生との交流 ⑥ ベトナム人材機関の見学と交流 ⑦ 実習報告書の作成

9. 成果	・教育実習の実施（授業見学、授業の実施、振り返り） 実習生はそれぞれ、初級クラス（文法）を1コマ、中級クラスの技能別クラス（「会話」「読解」）を2コマ、計3コマの実習を行った。実習生は自らの実現したい教育を目指した授業設計を目標に日本語授業を実施した。 ・ベトナム人学生との交流の実施 学内外において ULIS 学生との交流の機会を持った。 ・UJEC 協力国際株式会社の見学 技能実習生送り出し等の業務に携わる機関である UJEC を訪問し、寮生活や送り出しまでの期間の生活の様子を見学した。また、クラスに入り、学生と交流した。 ・報告書の完成 実習を通して学んだこと等をまとめ、報告書を作成した。
10. 備考	

以上

開講式報告書

【開講式概要】

開催場所 ハノイ国家大学外国語大学日本語文化学部
日付 2026 年 3 月 9 日
参加者 名古屋外国語大学
 学科長(オンライン参加)、先生、実習生 3 名
 ハノイ国家大学外国語大学
 先生、先生、**先生、**先生、3 名のチューター学生、日本語サークルの部長・副部長

【開講式の流れ】

1. ハノイ国家大学外国語大学**先生から歓迎のお言葉
2. 名古屋外国語大学**学科長からのご挨拶
3. 名古屋外国語大学実習生 3 名の自己紹介と意気込み並びにチューター学生の自己紹介
4. ハノイ国家大学外国語大学の成り立ち、日本語教育の歴史、日本語言語文化学部と学部授業の説明
5. 実習プログラム・実習授業の説明と確認

【まとめ】

開講式は学内の会議室で行われた。先生方と初めてお会いし、あたたかい歓迎のお言葉をいただいた。ハノイ国家大学外国語大学が日本語教育とどういった関わりがあったのかを知ることができた。実習プログラムの確認時には、実習当日にリハーサルができるようご配慮をいただいた。また、日本語サークルの学生ともサークルに参加できるよう対応していただいた。開講式の最中には、ジャスミンティーやベトナムのお菓子をふるまっていた。式の後には、おすすめのレストランやお土産などを紹介していただき、おいしいものを食べたいという私たちの要望に寄り添ってくださった。和やかな雰囲気で行われた開講式に参加することができ、実習生活を楽しく迎えることができた。

VJEC 協力国際株式会社訪問

3月12日、ベトナム滞在5日目に、ベトナムから日本への技能実習生送り出し機関であるVJEC 国際株式会社を見学した。半日という限られた時間ではあったが、会社概要の説明、授業見学や学生との交流、寮の見学、施設で提供される昼食の体験など、多岐にわたる見学・体験を行った。ここでは、VJEC 国際株式会社での見学を報告する。

まず、取締役の**氏より、会社概要について説明を受けた。同社では、18～35歳の学生を約80～90名受け入れ、日本へ技能実習生として送り出すための支援および渡航後のサポートを行っている。職員は日本人2名を含む計10名で、全員が日本への渡航経験を有している。施設は軍用施設を利用しており、集団生活の中で整理整頓や挨拶などの規律が厳格に求められていた。見学当初はその厳しさに驚きを感じたが、日本での就労を見据えた指導であると考え、必要な準備段階であると理解するに至った。

次に、授業の見学および学生との交流を行った。当日は4つのクラスで授業が行われており、それぞれ日本語レベルや就業予定の業種によって分けられていた。特別な事情がない限り全員が出席しており、軽度の体調不良であっても授業に参加する様子が見られた。これは、日本での就労を前提とした規律を順守する指導の一環であると考えられる。また、短期間で一定の学習水準に到達する必要があるため、授業は効率的に進められていた。一方で、学生が楽しみながら学習している様子も見られた。会話練習では恋愛など私的な話題も取り入れられ、教室全体が活気に満ちていた。さらに交流の場面では、日本人である筆者に対して積極的に日本語で話しかけ、分からない語彙や表現については学生同士で助け合ったり、教師に質問したりする姿勢が見られた。このような様子から、学生の学習意欲の高さに感心するとともに、自らの意思でこの機関に入り、日本で働くことを目標に学んでいるのだと実感した。

その後、寮の見学および昼食を共にした。寮は男女別に分かれており、1部屋あたり10名弱の学生が共同生活を送っている。長期間の生活の中でも整理整頓が徹底されており、携帯電話の使用時間も制限されていた。私生活においても規律正しく過ごすことは、日本語学習に集中するためだけでなく、日本での就労に適応するためにも必要であると感じた。昼食は施設で提供されるもので、栄養バランスや量に配慮された内容であった。ベトナム料理に不慣れな筆者にとっては新鮮であり、現地の生活の一端を体験する機会ともなった。

以上の見学を通して、技能実習生が来日前に受けている教育および生活環境について具体的に理解することができた。特に、短期間での日本語能力の向上に加え、規律ある生活習慣や就労態度の形成が重視されている点が特徴として挙げられる。見学当初はその厳しさに驚きを感じたが、日本での就労を見据えた指導として必要な側面があると理解した。また、授業や交流の場面においては、学生が主体的に学習に取り組む姿勢や、互いに助け合いながら学ぶ様子が見られ、強い学習意欲に感心した。本見学は、技能実習生が来日に至るまでの

過程を具体的に理解する上で有意義な機会であった。最後に、本見学にご協力いただいた
VJEC 国際株式会社の**氏をはじめ、教職員および学生の方々に深く感謝申し上げます。

交流会

交流会日時：2026 年 3 月 17 日（火）

場所：ハノイ国家大学外国語大学 A2 棟 802 号室

参加者：**先生、名古屋外国語大学の実習生、ハノイ国家大学外国語大学日本語文化学部 2 年生

授業内容：自己紹介と「やる気と結果の関係」についての意見交換

私たちは、2026 年 3 月 9 日から 3 月 20 日にかけて実施されたハノイ国家大学外国語大学での日本語教育実習に参加した。その一環として、3 月 17 日には同大学の学生との交流会が行われ、学生たちと教室とは別の形で交流することができた。ここでは、その活動内容とそこで得られた気づきについて報告する。

当日の活動は、大きく二つの段階に分かれていた。はじめに、少人数グループに分かれて自己紹介を行い、その後、大学が独自に作った教材「やる気と結果の関係」をもとに意見交換を行った。学生はクラス内で 3 グループに分けられ、実習生 3 名がそれぞれ異なるグループに加わり交流を行った。

自己紹介では名前や出身地、趣味だけでなく、日本に興味を持ったきっかけについても聞くことができた。例えば、日本での就職を目標とする学生や、人とのつながりを深めたいと考える学生、日本文学への関心から学習を始めた学生など、それぞれ異なる動機について話してくれた。また、「日本語で話しているときの方が自然な自分でいられる」と語る学生もあり、印象的だった。彼女の話から、言語の選び方が一種の自己表現になることにも改めて気付かされた。

グループには、漢字が大好きでそれが勉強のモチベーションだと話す学生もあり、印象的であった。その学生は特に日本語能力試験 N1 に出題される漢字を勉強しており、試験に合格するという具体的な学習目標も持っていることがうかがえた。そして彼からは私の名前にある「碧」という漢字についての質問を受け、「青」とのニュアンスの違いについて説明する機会があり、日本の色彩表現の豊かさについても話すことができた。このようなやり取りから、学習者が単なる知識としてではなく、文化の違いにまで踏み込んで理解しようとしている姿勢が感じられた。

後半の意見交換では教科書の題材をもとに、「やる気」を持って取り組むことが「結果」につながった例について共有しあった。例えば、漢字そのものへの興味を原動力として学び続けている学生がいる一方で、人間関係をきっかけに学習を始めたものの、その関係が途切れたことで意欲を失ってしまったという例もあった。このような対比から、モチベーションを保ち続けるにはどうしたら良いかという次の問いも生まれた。私たちのグループでは、他人に依存しない自分の好きなものを日本語と結びつけることができれば、モチベーション

を保ったまま勉強し続けられるだろうという結論に至った。

また、自由な会話の中では、日本語の細かな表現に関する質問が数多く寄せられた。アニメ「ハイキュー!!」に登場する「小さな巨人」の「小さな」と「小さい」の違いについての質問や、「愛人」という語の適切な使用場面、「凸凹」の読み方の独特さに対する関心についても話題にあがった。

全体を通して、学生たちは積極的に日本語を用いて発言しており、その運用能力の高さが印象に残った。特に、本クラスは日本語による試験を経て入学した学生で構成されているため、発話の正確さだけでなく、内容の深さにおいても高い水準にあると感じられた。

今回の交流会を通じて、学習者の日本語学習の動機や興味・関心の多様性を理解することができた。今後、日本語教育に関わるうえでは、こうした多様な背景を踏まえた教材選択や指導方法を検討する必要があると考える。学習者の関心を引き出し、それを持続的なモチベーションの安定に繋げられるような工夫を今後の課題としたい。

修了式

【修了式概要】

開催場所 ハノイ国家大学外国語大学日本言語文化学部
日付 2026 年 3 月 20 日
参加者 名古屋外国語大学
 学科長（オンライン参加）、先生（オンライン参加）、実習生 3 名
 ハノイ国家大学外国語大学
 学部長、先生、**先生、**先生、**先生

【修了式の流れ】

1. 名古屋外国語大学**学科長からのご挨拶
2. ハノイ国家大学外国語大学**学部長からのご挨拶と実習のご講評
3. **先生による実習のご講評
4. 実習生 3 名による振り返りのプレゼンテーション
5. ハノイ国家大学外国語大学日本言語文化学部**学部長による修了証書の授与
6. 記念撮影

修了式ではハノイ国家大学外国語大学の先生方から実習のご講評をいただき、2 週間の実習を振り返ることができた。私たちの授業の良かったところや改善点、ハノイ国家大学外国語大学でいろいろなことに参加したことについてのお言葉をいただいた。また、今後も日本語教育に携わっていくことの期待のお言葉もいただいた。

実習生のプレゼンテーションでは、3 回の実習の振り返りに加え、ベトナムでの生活や日本と違う文化についての内容が話された。今回の実習がとても貴重な機会となり、将来を考える大事な時間となった。